

川田順造教授 — 略歴と著作目録

略 歴

1934年東京・深川生れ。暁星中学校，大学入学資格検定を経て，東京大学教養学部理科Ⅱ類から，教養学科に新設2年目の文化人類学・人文地理学学科に進学。1958年卒業後大学院生物系研究科人類学専攻課程に進み，在学中フランス政府給費留学生として，パリ高等研究院第6分科に留学。この間短期間西アフリカ，オートヴォルタ（現ブルキナファソ）のモン村落調査（*Le Zitenga*, CNRS-CVRS, Paris-Ouagadougou, 1965）。

1965年帰国，大学院を単位取得退学，東京大学教養学部人文科（文化人類学）助手を経て，1966年より埼玉大学教養学部の新設された総合文化課程（文化人類学）助教授。1968年，京都大学大サハラ学術探検隊に参加して，南部モンの政治組織と歴史について現地調査。1969年フランス外務省文化交流基金により，パリ第5大学（ソルボンヌ）で博士論文執筆，1971年民族学博士の学位取得（*Genèse et évolution du système politique des Mosi méridionaux (Haute-Volta)*，AA研アジア・アフリカ言語文化業書 No.12, 1979）。

1970年埼玉大学を退職。ユネスコ奨学金により1971年から1年間モン社会で現地調査。1972～1975年，オートヴォルタ政府の要請により，「伝統的技術を開発に役立てる可能性についての調査研究」のために，OTCA（JICAの前身である日本政府海外技術協力機関）派遣の専門家としてオートヴォルタで現地調査（*Technologie Voltaïque*, Musée National, Ouagadougou, 1975）。オートヴォルタ北部で調査旅行中，自動車事故で左胸肋骨4本8カ所，左肘関節の骨折，フランスの病院で手術とリハビリ。

1975年10月帰国。1971年から『思想』に断続連載した論文「無文学社会の歴史」で日本民族学振興会の第8回渋沢賞を受ける。AA研の助教授公募に応募，1976年よりAA研助教授（1984年より教授）。国立民族学博物館第3研究部助教授（のち教授）。放送大学「アフリカ論」担当講師などを経て，1997年AA研を停年退職。その後広島市立大学国際学部教授。

AA研在職中，共同研究プロジェクト「口頭伝承の比較研究」（1983～1987）（『口頭伝承の比較研究』Ⅰ～Ⅳ，弘文堂，1984～1988），『『未開』概念の再検討』（1988～1994）（『『未開』概念の再検討』Ⅰ～Ⅱ，リポレポート，1989，1992，Ⅲは近刊），「音・図像・身体による表象の通文化的研究」（1995～1997）（『響きあう異次元』，平凡社より近刊），国立民族学博物館での共同研究「民族とは何か」（1984～1987）（『民族とは何か』，岩波書店，1988），「ヨーロッパ基層文化の研究」（1991～1995）（『ヨーロッパの基層文化』，岩波書店，1995），「文化相対主義の再検討」（1996～）（岩波書店より近刊）などを組織。

文部省科学研究費海外学術調査として「ニジェール川大湾曲部諸文化の生態学的基礎及び共生関係の文化人類学的研究」（1986～1994）（*Boucle du Niger: approches multidisciplinaires*, Vols, 1～4, AA研，1987～1995），「アフリカにおける音文化の比較研究」（1995～1997）（*Cultures sonores d'Afrique*, AA研，1997）などを組織。

受賞・受章としては，上記渋沢賞のほか，第22回日本エッセイストクラブ賞（『曠野から』に対して），昭和59年度文化庁芸術祭レ

コード部門優秀賞(『サバンナの音の世界』に対して), 第26回歷程賞(『聲』に対して), 第46回毎日出版文化賞(『口頭伝承論』に対して), 1993年フランス学士院(アカデミー・フランセーズ)フランス語圏大勲章(フランス語圏への学術貢献に対して), 1995年フランス政府学術・文化功労章(フランス文化への貢献に対して)など。

11種の高校国語教科書に文章が採録されている。

パリ高等研究院(EPHE), 社会科学高等研究院(EHESS)客員教授, フランス国立科学

研究センター(CNRS)客員研究員などとして度々招聘される。1993年, 世界文化アカデミー(Académie Universelle des Cultures, 会長エリー・ウィーゼル)会員に選ばれる。日本口承文芸学会(会長, 研究会担当・機関誌編集担当理事), 日本民族学会(研究会担当・機関誌編集担当理事), 日本アフリカ学会(理事), 日本民俗学会(評議員), 地中海学会(常任委員), 国際開発学会(常任理事), 日本記号学会(理事)その他, 日本人類学会, 日本音楽学会, 東洋音楽学会, 舞踊学会など, 多くの学会活動に参加。

著作目録 (1997年3月現在)

単行本〈和文〉

単著

- 『マグレブ紀行』, 中央公論社(中公新書), 1971.
 『曠野から』, 筑摩書房, 1973(中公文庫, 1976).
 『無文字社会の歴史』, 岩波書店, 1976(岩波同時代ライブラリー, 1990).
 『サバンナの博物誌』, 新潮社(新潮選書), 1979(ちくま文庫, 1991).
 『サバンナの手帖』, 新潮社(新潮選書), 1981(講談社学術文庫, 1995).
 『バオバブ』(小川待子絵), リプロポート, 1982.
 『砂漠の塩』(小川待子絵), リプロポート, 1984.
 『サバンナの音の世界』(レコードアルバム), 東芝EMI, 1984(カセットブック, 増補改訂版, 白水社, 1988).
 『聲』, 筑摩書房, 1988.
 『西の風・南の風 一文明論の組みかえのため一』, 河出書房新社, 1992.
 『口頭伝承論』, 河出書房新社, 1992.
 『サバンナの王国 一ある「作られた伝統」のドキュメント一』, リプロポート, 1993.

『アフリカ』「地域からの世界史」9, 朝日新聞社, 1993.

『アフリカの心とかたち』, 岩崎美術社, 1995.

『サバンナに生きる』, くもん出版, 1995.

『ブラジルの記憶』, NTT出版, 1996.

共著

『音・ことば・人間』(武満徹と共著), 岩波書店, 1980(岩波同時代ライブラリー, 1992).

『アフリカ社会における通信システムとしての太鼓ことばの研究』(小田淳一, 山本順人と共著), 平成7年度科学研究費補助金(一般研究(B))研究成果報告書, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1996.

編著

『民族探検の旅』第6集「アフリカ」, 学習研究社, 1977.

『口頭伝承の比較研究1』(徳丸吉彦と共編著), 弘文堂, 1984.

『口頭伝承の比較研究2』(柘植元一と共編著), 弘文堂, 1985.

『口頭伝承の比較研究3』(山本吉左右と共

- 編著), 弘文堂, 1986.
『口頭伝承の比較研究 4』(野村純一と共編著), 弘文堂, 1988.
『イメージの冒険』(アフリカ美術展図録), アフリカ協会・国際文化協会, 1985.
『ときをとく』(坂部恵と共編著), リプロポート, 1987.
『黒人アフリカの歴史世界』「民族の世界史」第12巻, 山川出版社, 1987.
『アフリカ論 一人間と文化の原点を求めて一』, 放送大学教育振興会, 1987.
『民族とは何か』(福井勝義と共編著), 岩波書店, 1988.
『ナイジェリア・ベニン王国美術展』, 西武美術館・朝日新聞社, 1989.
『「未開」概念の再検討』I, リプロポート, 1989.
『「未開」概念の再検討』II, リプロポート, 1991.
『「未開」概念の再検討』III, 南風社, 1997 (予定).
『歴史のある文明, 歴史のない文明』(岡田英弘, 樺山紘一, 山内昌之と共編著), 筑摩書房, 1992.
『改訂版 アフリカ論』, 放送大学教育振興会, 1993.
『ヨーロッパの基層文化』, 岩波書店, 1995.
同人雑誌『社会史研究』(阿部謹也, 二宮宏之, 良知力と共編著), 第1巻~第8巻, 1982~1988, 日本エディタースクール出版部.
『ニジェール川大湾曲部の自然と文化』, 東京大学出版会, 1997.

訳書

- レーマン著『アメリカ大陸の古代文明』, 白水社(クセジュ文庫), 1959.
ボーム著『アフリカの民族と文化』, 白水社(クセジュ文庫), 1961.
オリヴァー著『アフリカ史の曙』, 岩波書店(岩波新書), 1962.

- レヴィ=ストロース著『構造人類学』(田島節夫他と共訳), みすず書房, 1972.
レヴィ=ストロース著『悲しき熱帯』上下, 中央公論社, 1977.
レヴィ=ストロース著『現代世界と人類学』(渡辺公三と共訳), サイマル出版, 1988.
レヴィ=ストロース著『ブラジルへの郷愁』, みすず書房, 1995.

単行本<欧文>

単著

- Le Zitenga*, CNRS-CVRS, Paris-Ouagadougou, 1967.
Technologie voltaïque, Musée National de Haute-Volta, Ouagadougou, 1975.
Genèse et évolution du système politique des Mosis méridionaux (Haute-Volta), ILCAA, Tokyo, 1979.
Textes historiques oraux des Mosis méridionaux (Burkina-Faso), ILCAA, Tokyo, 1985.

共著

- Development and Culture* (with Wole Soyinka), Africa Leadership Forum, Otta, 1988.

編著

- Boucle du Niger: approches multidisciplinaires*, Vol.1, ILCAA, Tokyo, 1988.
Boucle du Niger: approches multidisciplinaires, Vol.2, ILCAA, Tokyo, 1990.
Boucle du Niger: approches multidisciplinaires, Vol.3, ILCAA, Tokyo, 1992.
Boucle du Niger: approches multidisciplinaires, Vol.4, ILCAA, Tokyo, 1994.
Cultures sonores d'Afrique, ILCAA, Tokyo, 1997.

<ビデオ・カセット>

- 『インタビュー: クロード・レヴィ=ストロース 1) 自然・人間・構造, 2) 日本への眼差し』, 白水社=NHKソフト, 1994.

論 文

(最近5年以内に発表したもののいくつか)

“Histoire orale et imaginaire du passé”,
Annales ESC, Paris, juillet-août 1993, no.4:
pp.1087-1105.

「音声によらない言語伝達の形式における曖昧さをめぐって」『記号学研究』13「身体と場所の記号論」, 日本記号学会, 1993: pp.17-37.

「国際学部の中の文化人類学」『広島国際研究』第1号, 広島市立大学, 1995: pp.19-38.

「肖像と固有名詞 —歴史表象としての図像と言語における意味機能と指示機能—」『アジア・アフリカ言語文化研究』48・49合併号, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1995: pp.495-537.

“Fostering the identity and creativity of local cultures”, Keynote speech, in *Culture in Development and Globalization: Proceedings of a series of symposia held at Nongkhai, Hanoi and Tokyo*, The Toyota Foundation, Tokyo, 1995: pp.25-43.

“Human Dimensions in the Sound Universe”, in Roy Ellen & Katsuyoshi Fukui (eds.), *Redefining Nature: Ecology, Culture and Domestication*, Berg, Oxford, 1996: pp.39-60.

“Der Doppelselbstmord als kulturelles und religiöses Phänomen in Japan”, in Constantin von Barloewen (ed.), *Der Tod in den Weltkulturen und Weltreligionen*, Eugen Diederichs Verlag, München, 1996: pp.228-246.